

福島県 教育新聞

発行人 福島県教職員組合
発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
〔定価一部 20円〕
編集・責任者 酒井和紀
e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
https://www.f-t-u.or.jp
(この購読料は組合費に含まれています。)

共済わくわくキャンペーン

実施中!!

ご応募は
こちらから⇒

教職員共済



悩みを共有できてスッキリ! 各専門部大会・総会 対面やオンラインで開催!



26年度各専門部大会・総会は、対面で開催した専門部、対面とオンラインを併用した専門部と様々でしたが、各専門部の仲間で交流することの良さを再確認しました。

交流するだけでなく、学習会を設定した専門部もあり、組合でしかできない事を学びました。各専門部から出された意見は、秋の交渉や冬の専門部交渉に活かしていきます。

栄養教職員部総会

6/27(土) 郡山教組会館 10:00~12:00 対面&オンライン開催



- 福島で給食センターの統合により、異動後1・2年目でも再び異動させられた。今後も他の地区で学校の統廃合が進むので、異動・配置の問題が発生しないよう、同じ状況にならないようにしてほしい。
- 少数職種が病休等で休んだ場合の補充の体制が厳しい話が出された。複数配置のセンターで補充が入らず1年間、2人分の仕事を1人でしてきた報告があり、難しさが浮き彫りになっていた。

養護教員部総会

6/27(土) 郡山教組会館 10:00~12:00 対面開催

- 集団フッ素洗口が大変。町から届いた劇薬を、毎回希釈して全学級分準備する。前日から準備し、終われば残量を計測しなければならず負担。異物混入の心配もあり、学校で劇物を扱うことに強い抵抗感がある。
- 部活が18:30までやっているの、16:40に退勤できない。生徒が怪我をしても、18:00以降やっている病院はなく、救急の病院も少ないので受診できない。



女性部定期大会

6/13(土) 郡山教組会館 13:00~15:00 対面開催



- 男性教員が産休を取ろうとしたら、管理職に「戸籍抄本」を持ってくるように言われ、出産後の忙しいときに大変だった。結局、提出の必要はなかった。
- 「定年前再任用短時間勤務」で同じ勤務をしている方との勤務時間に、200時間近い差があった。夏休みも、毎日4時間勤務する予定になっている。
- 学級が減り教員も減り、校務分掌が増えた。多忙化に拍車がかかっている。
- 産休育休取得予定の「先取り加配」の制度がとても良い。(特に養護教諭)
- いまだに週案…「単元名」や「ねらい」も書いている。特支の先生は、毎週8時間かけて、全学年の週案を仕上げていくという。「何かあったときの根拠になる。」と管理職は言うが、そのためだけに労力がかかりすぎ。

【アンケートから】 更年期障害休暇があると良い。60歳以上は体育(水泳など)が免除になると良い。

青年部総会

6/13(土) 県教育会館 14:00~16:30 対面&オンライン開催

- 教育相談で保護者とどのように話したらよいか。学校での子どもの様子を伝えながら、家庭での様子や習い事などについて子どもの様子を聞き、保護者との信頼関係をつくっていききたい。
- 経験年数が短い教職員は、周りの先生方に分からないことを聞きながら、仕事の様子を一緒に見せてもらって仕事に慣れていききたい。お菓子を食べて休憩して話をするなどして、教職員のつながりを広げていきたい。学校には事務職員、養護教員、栄養教職員などいろいろな方がいるので、いろいろな人に話をしていくとよい。
- 「しゃべり場」で、好きなものや日頃思うことなどを話して交流し、楽しい会となった。



専門部大会・総会つづき



事務職員部定期大会 ▶ 6/13(土) 10:00~12:00 郡山教組会館 対面開催

- 給食費の無償化について、各地区から報告が出されていた。概ね事務軽減がされてきているようだった。
- 地教委との交渉で予算の増額が行われたことが報告されていた。抜本的な改善ではなくても学校の現状を伝えていくことの必要性が語られた。
- 相双地区で今年度市町村どころではなく地区をまたいで南相馬と双葉でのグループが作られたことについて詳しく報告がされた。5級昇級のための方策である共同連携が、負担となってきた状況がでてきている。主任主査昇任のための新たな方策を要求していかなければならない。



障がい児教育部総会 ▶ 6/27(土) 13:00~15:00 郡山教組会館 対面&オンライン開催

- 特別支援学級には複数学年の児童生徒が所属している。すべての学年の週案・月案を作るのは負担が大きすぎる。時数の管理だけにならないか。一方で、反省の欄には学校への要望等を書けば、管理職に意見を伝えるチャンスと捉える事もできる。
- おたよりに「●●学級 3人」のように分けて書かれたり、プリント類の配布の際に、特別支援学級の分が無かったりする。これは支援学級の子どもの人権が守られていないように感じる。通常学級と分けずに平等に同じように対応してほしい。
- 生徒の進路実現のため、高校入試における合理的配慮を実現・拡充させてほしい。



ようこそ！今日から FTU仲間

鈴木書記次長が行く！
Go!Go!ふくしまオレグ

Mさん (J支部・Q小学校 新採用)

①「組合に入ろう」と思ったきっかけは？

他校の先生方とのつながりを大切にしたいと思い組合に加入しました。さまざまな先生方と交流しながら学び、自分自身の成長につなげていきたいです。

②今のお仕事をめざしたきっかけは？

小学校1年生の時から学校が楽しく大好きだったため、今度は私が子どもたちの楽しく安心できる毎日をつくっていきたくて考えたからです。

③これから、どんな学校(職場)になってほしいと考えますか？

子どもたちも先生方も毎日学校が楽しいと思える職場であってほしいです。初任者として多くのことを学びながら、職場の雰囲気づくりに貢献していきたいです。

今年度採用の方も組合に加入してくれました。「組合の輪」の広がり、うれしいですね。

いつも笑顔で前向きに子どもたちと向き合い、明るい学級づくりに取り組んでいるMさん。フレッシュなMさんから、私も元気とやる気をもらっています！(By教務主任)



今年もおじゃまします！

県教組キャラバン

9月から11月にかけて、県内を回ります。日程が決まりましたら、各支部から分会に連絡が入ります。お時間を調整していただき、たくさんの声を聞かせてください。
(※限られた時間での実施のため、訪問できない分会もあります。ご了承ください。)

みなさんの職場の課題や要望を聞きに行きます。管理職とも話をします。

組合未加入の方に組合について説明し、仲間を増やします。連携する団体も同行します。

冬のボーナスや、さまざまな制度の現状についてお知らせします。

市町村教委を訪問し、現場のみなさんの声を届け、改善を求めます。

人事委員会勧告の内容の説明＋交渉の課題の説明をします。

各支部 定期大会 定期総会

5月に行われました県教組定期大会を受け、県内各支部で定期大会・定期総会が行われ、県教組の中央執行委員も出向いて、各支部の声に耳を傾けてきました。各支部の組合員の切実な声を、秋闘と冬の専門部交渉に反映させ、改善に向けて全力投球してまいります！

これからの支部もありますのでよろしくお願いします。

みんなの声を
届けよう！

各支部からの声を、分野別に紹介します！



忙しいって言うてるのに！

- 欠員のままスタート、精神面の不調で病休の教職員もいる。保護者対応が大変で放課後の時間が無い。
- 人員不足。教職員の定数配置、増員を考えてほしい。少人数学級を実現してほしい。
- 放課後、電話対応はもちろん、保護者が来校するなど、担任も管理職も拘束される時間が多すぎる。
- 特別支援学級で複数学年の在籍が多く、持ちコマ数が多い。教材研究の時間も十分にとれない。



業務量管理、どうなってるの？

- 早く帰るように言われ、持ち帰り業務をせざるを得ないところがある。持ち回りの仕事を県できちんと調査してほしい。
- 市や県からのアンケートが多すぎる。その結果が公表されていない。必要最低限にしてほしい。
- 熊が出たら休校措置にしてほしい。教職員や保護者の「生命の安全」も大事。



予算、なんとかして！

- 定年延長や再任用について、7割給与では業務量に見合わない。教育予算の増額を求める。
- 教師用指導書が不足している。せめて主要教科(国・算)は全学級に配当してほしい。支援学級(知的)にも朱書きの指導書がほしい。
- 昨年度、組合との働きかけで要望を伝え、給食調理場へのエアコンが設置され始めて良かった。今後の給食調理場統合に向けて、市へ意見を伝えていきたい。
- プールや窓のサッシなどの修繕をするための学校の予算を増やしてほしい。

県支部定期大会は、13人中11人が
女性教職員だったよ！すごいね！



ひとり職の悩み…

- 養護教諭の給食に関する業務の負担が大きい。そのための人員を増やしてほしい。
- 集団フッ素洗口の実施に関しても、市町村が変わると方針が違い困惑する。他の市町村の情報をもっと知りたい。
- 集団フッ素洗口のための準備が大変。前日から準備している。劇物を扱うので日々不安である。
- 学校栄養職員、栄養教諭の定数を変えてほしい。
- 配膳員の配置、勤務時間の改善を。



若い先生からも…

- 初任研と日程が重なり、宿泊学習に担任として引率できない。子どもたちと思い出づくりをしたいのに…。
- 初任研で学校を空けることが多く、報告も多いのがつらい。
- 鼓笛パレード、奉仕作業や草刈りなどの負担も大きい。部活の終了時間が遅い。
- 校務分掌に偏りを感じる。地元採用だが、「3管内」という縛りが不安。



学校のICT化、なんとかして！

- CBTでの学力調査は、入力の方の質問や不具合が多く、本当の学力調査になっていないところがある。
- 自分手帳のデータ入力(朝食調べなど)が、特に低学年で大変。負担について県教委や市教委へ伝えていきたい。
- ベテランの先生からは、自分手帳のデジタル化や管理、CBTや学校用PCの入れ替えなどについていけないという声も。



「ノスタルジー」に変わる新コーナーとして、今年度から「ココロの余白」を連載します。県教組中央執行委員が輪番で、日常生活の中で見つけたほっこりする内容や気づきなど、忙しい中にもココロの余白をお伝えしたいと思います。
(奇数月掲載予定)